総合的景観誘導・支援方策

<このプログラムの取り組み>

◎良好な街並み景観を今後も保全していくための具体的策を模索します。

- ・「金山町の風景と調和した金山町街並み景観条例」の趣旨を全町民が改めて 再認識していくとともに、中心部だけではなく町全体へ街並み景観形成・保 全の活動を広げていく。
- ・美しい街並み景観を今後も保全していくため、建築物の規制や景観上重要な 建築物・樹木・施設等の指定を行える「景観計画」の策定について、必要性 を検討していく。

<構想・実践メンバー>

住吉洋二(東京都市大学名誉教授、金山町景観審議会専門委員)

阿部千晶 (あべちあき設計室代表、一級建築士)

松田大介 (環境整備課 建設係長) 小林和幸 (環境整備課 管理係長)

佐藤雄太 (環境整備課 環境下水道係主事)

景観・まちづくりに関連する 主な計画、取り組み

金山町新総合発展計画(昭和49年~)

金山町が「住み続けたい町・誇りを持てる町」を目指していくための 亜山川川には今続いたい町・誇りを持てる町」を目指していくための基本となる計画です。昭和49年度に第1次「金山町総合計画基本構想」を策定して以来、時代に合わせて昭和59年度には第2次計画、平成10年度には第3次計画、平成23年度には第4次計画へと移行しています。

います。 その中の主要施策の一つとして「街並みづくり100年運動」が提唱 されており、金山町の風景に調和した美しい街並みを保全・創造してい くことが重要であるとされています。



町のシンボル「大堰|周辺の風景

住宅建築コンクール (昭和53年度~)

金山町在住の大工・建築関連業者が金山町内外に新築した住宅等を対 並出りはエッハ上・ 建来回生来日 2 出りけいたの深としました。 象に、商工会が委嘱した審査員による審査が行われ、優秀賞、優良賞等 の入賞作品が表彰されています。このコンクールは、<u>地元産材である金</u> 山杉を活かし、金山大工職人が自ら風土と調和した金山住宅を造りあげ、 かげる音図があります。

金山町街並み景観条例制定(昭和60年度)

明治11年に日本の東北地方を旅した英国人旅行家イザベラ・バード ことが、全町民の直務と考え、本条例を制定しました。その際には、建 築物等の整備に関する「景観形成基準(ガイドライン)」が設けられた

※初寺の金剛に周めなる相談が創設されました。 ほか、「景観助成金制度」が創設されました。 これは形成基準に合致する建築物の新築・増改築・工作物の改築・促 理。屋橋等外観の色彩変更に対して、最高80万円(創設当初は30万円)を限度に助成金を交付するもので、平成30年度末までの助成件数 は延べ1,677件、助成金総額は2億5千万円を超え、助成対象事業 費の総額は95億円以上と、民間住宅への助成ではあるものの、金山町 における地域経済のけん引役となっています。



落ち着いた雰囲気の「金山住宅」



「金山住宅」の基本的な様式

全町公園化構想(平成4年度~)

「街並みづくり百年運動」によるまちづくりを進めていくための方策の一つとして、本構想が策定されました。これは、町民の日常生活を豊かで快適なものにし、町民自身が誇りを持てる町をつくることを目的とした取り組みです。これまでの「行政主導型」のまちづくりから「地域 (金山、有屋、中田、東郷、西郷) において、町民 興計画が策定され、現在まで発展してきたものです。 町民が主体となり地域振



蔵史館前広場の風景

街なみ環境整備事業 (平成16年度~)

国土交通省住宅局所管である本事業を活用しながら、公園や散策路 国工文型目に七川川目での公平学来を沿用しなかっ、入園で収取出 交流施設の整備を行いました。「大理公園」「マルコの蔵」「別場街区 公園」など、町中心部の交流促進に向けた施設を整備し、<u>街並み形成が</u> 点から線、さらには面的な広がりへと拡大(訪問者の滞在時間の延長。

街なか公営住宅整備事業 (平成24年度~)



平成20年以降からは、まちづくりを行う上で近代的な課題が断著になってきました。全国的な課題でもある少子化や就労の場を変更のあるの子化や就労の場を変更ないる。 (人口減少) や、ハウスメーカー等の町内進出による「伝統的な金山住宅の新築着工数の減少」です。それと同時に町内中心部での空き家・空き地が散見されるようになり、街並み景観が崩れつつありました。これらの課題に対応するべく「金山町街なか公営住宅」の整備に取り組み、平成30年度末までに合計24棟の建築を終え、町内の空き家・空き地の解消、若者の町外流出に歯止めをかけ定住化を促進してきました。

「街なか公営住宅」(内町)

その他の計画など

- ・最上エコポリス構想(平成5年度)
- ・くらしのみちづくり計画(平成7年度)

景観・まちづくりに関連する 主な受賞歴

●毎日・地方自治大賞(毎日新聞社表彰)

平成12年度 最優秀賞

毎日新聞が主催し総務省が後援をする毎日・地方自治大賞は、新時代 の地域づくりを目指し、地域独自の優れた事業や活動、企画を進めてい

の地域プトリを目指し、地域独自の優化に事業や活動、正画を進めている全国の市町村を表彰するものです。 この年のテーマは「伝統とネットワーク」で、金山町の街並みづくり 100年運動において、伝統建築(金山住宅)の杉と白壁を基調とした 美しい街並みの形成・保全を図りながら、人と自然の関わり、林業や金 山大工といった物的、人的地域資源の活用などを推進しているところが 評価され、最優秀賞を受賞しました。



●都市景観大賞(国土交通省大臣表彰)

平成7年度 都市景観百選に選定 平成22年度 美しいまちなみ大賞

都市景観大賞は、平成3年度から平成12年度までの10年間は「都 市景観百選」を選定しました。街並みなどの構成や外観についての創意 工夫や配慮などを総合的に見て、優れた地域空間を創出している地区が

定(表彰)されました。 平成13年度以降は美しい街なみを創り、育てるために行政と民間が 協同し、総合的な取り組みが行われている地区を表彰しました。金山町は平成22年度に岡山県倉敷市と共に「金山地域区長サミット」「金山 町」の連名で大賞を受賞しました。



風景と調和した建物、道、水路など

●日本建築学会賞(社)日本建築学会表彰)

平成14年度「街並みづくり100年運動」の推進(業績賞)

日本建築学会賞は、もともと国内の建築設計などで学術・技術・芸術などの発展に貢献するような論文や作品を表彰するものですが、それ以外にも建築物等を通じた優れた街づくりの取り組みなどを業績賞として 金山町は街並みづくり100年運動の推進に関する 様々な取り組みが評価されました。

※その他にも多数の表彰・受賞歴があります。



表通りだけではなく裏通りも細やかな配慮

外部評価から見えてくるもの

上に挙げた受賞事例などから、美しい街並み景観だけでは なく、そこに関わった町や町民、団体などの取り組みの姿勢 や内容についても高く評価されていることがわかります。

金山町は当初から、生活の場の充実や地域の個性を活かし たまちづくりによる「町民が住みつづけたくなる町」を目指 してきました。

町には著名な遺跡や歴史的建造物などが存在しないことも あり、<u>単純に観光地化することを目的とせずに町</u> さんが地道に街づくりを進めてきた成果と言えます。



町民に親しまれている「きごころ橋」

これからのまちづくりに対する意識

これから金山町のまちづくりを「次世代」に継承していく 上で、街並みづくり100年運動の基本指針を尊重し、<mark>町民</mark> とりが自覚を持ってまちづくりに係わっていけるよう

な、高い意識が醸成されていくことが望まれます。 また、100年運動をこれからも継続していくためこれま での活動に加えて、右のような取り組みを推進していく必要 があります。



<これからの取り組み>

- これまで町中心部に偏りがちだったまちづくりの運動について、中心部以外のそ れぞれの地域文化・伝統などを尊重しつつ、全町的な広がりを持たせていけるよ うな方策を進めていきます。
- ・風景に調和した街並みを保全・構築していくために、町民生活に密接に関わって いるような重要な建築物や樹木、関連施設を改めて調査・把握し、今後のまちづ くりや景観保全に活かせるよう整理をしていきます。
- ・これからのまちづくりを担う若い世代が、自覚を持って楽しくまちづくりに参加 できるような機会や手法を創出していきます。